言葉で感じる季節

秋高く

あきたか

秋になって残暑が落ち着くと人の身体は軽く感じられます。
空を見上げれば夏雲の大きな積乱雲が、いつしか秋雲のまばらな巻積雲に変化。大気も澄み、空がいっそう高く感じられることを言います。
常に空の下で過ごすねぎたちも秋の空との距離を感じているのでしょうか。

全国的なねぎ不足が続いています。私たちも、先月からこの秋のシーズンにどれだけ踏ん張れるかが肝であると、農人一同気を張りつつの心持ちが続いています。ねぎを大切に扱って、愛情を注ぎ、来年の春先までに繋いでいきます。

古都・事・言　3つの「こと」を伝えます

ことねぎだより

NO.197
2023年10月号
TEL：075-601-0668
こと京都株式会社

今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

細く短いながらも、すっとキレイな秋葱のお届け

夏場に丹後で育った畑からのお届け。一度収穫して、二作目の圃場が多く、この時期は毎年軟腐病による欠株に悩まされます。今年は恵みの雨が少なく、軟腐病が広がりやすい条件にもなる雨の中での収穫というのはほとんどありませんでした。それでもゼロという訳にはいかず、少なからず被害が出ていますが、例年に比べて収穫後に株元殺菌を行うなどの対策も行ったおかげで、被害を抑えることができました。雨が少なかった分、少し短く細めになりますが、きれいな葉のねぎをお届けします。

KOTO GROUP 4A

秋葱

農人たちの畑での作業の様子、THE農業！の現場の「こと」を発信

今植えている苗は来年の春頃に収穫します

夏を超えた今、協力体制の秋の繁忙期

昨年の９月を思い返すと毎週のように台風が訪れていましたが、今年は上陸・被害がなく、農人一同ほっとしています。
また、例年にない暑さだった９月も、10月に入る下旬頃から徐々に気温も低下しはじめたおかげで、ねぎの顔色も良くなってきたように感じます。ねぎが育ちやすい環境は、私たち人間にとっても、農作業がしやすい環境になります。
９月下旬から10月上旬は、１年の中で最も忙しい作付けのピークになり、時間との戦いになります。農産メンバーだけではなく、工場勤務のメンバーも夕方から作業応援に入っていただき、皆で一緒に定植をする日もあり、いつもと違って見慣れない雰囲気に。現在植えているものは来年春先のねぎ。工場メンバーの方も、来年自分たちが加工するねぎになるんだなぁと想いを馳せてもらいつつ、この秋口、皆で一丸となってねぎ生産を行っていきます！

1DAY 350g 野菜を食べよう プロジェクト

こと京都は「野菜を食べよう」プロジェクトのサポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組みます。

とある日の農人日記。

日中も比較的作業のしやすい気温になったなぁと思えば、朝から湿度が高くバテてしまう１日も。湿度が高くなった影響で病気の発生はないかとは思いますが、品質が落ちないよう注意していきます。（美山エリア・大牧）